

転倒災害防止について

転倒による労働災害（以下「転倒災害」という。）については、休業4日以上の死傷災害の中で、最も多く発生しています。転倒災害が増えている理由の一つとして、働く人の高齢化が挙げられ、高齢労働者は身体の平衡機能や敏捷性、視認性が低下するため、転倒しやすく、また、つまずいて転倒しただけであっても災害の重篤度が高まる傾向があります。

そのため、転倒災害防止対策は取り組まなければならない課題の一つとして積極的に取り組み、「4S（整理・整頓・清掃・清潔）」、床面の水濡れの除去等の対策のほか、次の具体的な対策を行うことが重要です。

1 転倒災害を発生させる環境要因の解消（ハード対策）

作業場・通路などの照度を高く保つとともに、つまずきや滑り等それぞれに係る環境要因を解消する物理的対策（ハード対策）を実施する。

2 労働者の高齢化に伴う身体機能の低下への対策（ソフト対策）の促進

転倒災害の実態に鑑みれば、ハード対策のみでは不十分であり、特に労働者の高齢化に伴う身体機能の低下への対策（ソフト対策）として、以下の取組が重要です。

(1) 身体機能の低下への対応

転倒災害の原因として、特に障害物や凹凸のないところでつまずいて転倒したものや、足がもつれて転倒したものが多数を占めており、これらは労働者の身体機能の低下がその要因として大きいと考えられることから、「転倒等リスク評価セルフチェック票」を活用した身体機能の低下に起因する転倒リスクの可視化及び身体機能の維持向上のための取組を促進しています。

(2) 骨粗鬆症対策

中高年齢の女性労働者においては、転倒による骨折のリスクが高くなっており、市町村によっては健康増進事業として、一定年齢の女性を対象として骨粗鬆症検診を実施しているので、その受診勧奨をしています。

労働者の転倒災害（業務中の転倒による重傷）を防止しましょう

50歳以上を中心に、転倒による骨折等の労働災害が増加し続けています
事業者は労働者の転倒災害防止のための措置を講じなければなりません

「つまずき」等による転倒災害の原因と対策

- 何もないところでつまずいて転倒、足がもつれて転倒（27%）
→転倒や怪傷をしにくい身体づくりのための運動プログラム等の導入（*）
- 作業場・通路に放置された物につまずいて転倒（16%）
→バックボード等も含めた整理、整頓（物を置く場所の指定）の徹底
- 通路等の凹凸につまずいて転倒（10%）
→敷地内（特に従業員用通路）の凹凸、陥没穴等（ごくわずかなものでも危険）を確認し、解消
- 作業場や通路以外の障害物（車止め等）につまずいて転倒（8%）
→適切な通路の設定
→敷地内駐車場の車止めの「見える化」
- 作業場や通路の設備、什器、家具に足を引っかけて転倒（8%）
→設備、什器等の角の「見える化」
- 作業場や通路のコードなどにつまずいて転倒（7%）
※引き出した労働者が自らつまずくケースも多い
→転倒原因とならないよう、電気コード等の引き出しのルールを設定し、労働者に遵守を徹底させる

「滑り」による転倒災害の原因と対策

- 凍結した通路等で滑って転倒（25%）
→従業員用通路の除雪・融雪。凍結しやすい箇所には融雪マット等を設置する（*）
- 作業場や通路にこぼれていた水、洗剤、油等により滑って転倒（19%）
→水、洗剤、油等がこぼれていることのない状態を維持する。
（清掃エリアの立入禁止、清掃後乾いた状態を確認してから通路の開放）
- 水場（食品加工場等）で滑って転倒（16%）
→滑りにくい履き物の使用（労働安全衛生規則第558条）
→防滑床材・防滑グレーチング等の導入、摩擦している場合は再施工（*）
→無接エリアまで濡れにくいよう配慮
- 雨で濡れた通路等で滑って転倒（15%）
→雨天時に滑りやすい歩道の場所を確認し、防滑処置等の対策を行う

【*】については、高齢労働者の転倒災害防止のため、中小企業事業者は「エイタフレンドリー補助金」（補助率1/2、上限100万円）を利用できます
中小事業者は、無料で安全衛生の専門家のアドバイスが受けられます

転倒災害の発生状況（休業4日以上、令和3年）

転倒災害発生件数の推移

転倒による怪傷の概観

- 骨折（約70%）
- 打撲
- 眼球損傷
- 外傷性気胸 など

転倒災害による平均休業日数（※労働者死傷補償による休業見込日数）
47日

転倒したのは...

作業中 26%
移動中 74%

転倒災害が起きているのは移動のときだけではありません

転倒時の類型

主な原因と対策

転倒リスク・骨折リスク

- 一般に加齢とともに身体機能が低下し、転倒しやすくなります
→「転倒の予防 体力チェック」「口コチェック」をご覧ください
- 特に女性に加齢とともに骨折のリスクも著しく増大します
→対象者に市町村が実施する「骨粗鬆症検診」を受診させましょう
- 現役の方でも、たった一度の転倒で寝たきりになることも、転倒事故の起こりやすい箇所は？（内閣府ウェブサイト）